

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 啓発・広報(V)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-01 キーワード (Ja): 在沖縄米軍関係者, 現地広報活動, 米国財務長官来日, 大臣内奏用資料, 返還協定に関する報道, 国会への中間報告, 寄稿・広報資料、返還協定反対論, 自民党, 公用地等の暫定使用, 沖縄復帰祝典 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43487

○
文
書
一
九
三
年
八
月
廿
五
日
（昭四七
五月廿五日）

政務次官

アメリカ局長
参事官
北米オ一課長

(No. /

(No. 2

10x2

۱۷۹

外務省

10>

4340

第十五回国民懇話会年次大会における
大西政務次官の「おはなし」（案）

昭和四七、五、一
アメリカ局北米第一課

只今御紹介にあづかりました外務政務次官の大西でございます。
本日、福田外務大臣の代理として、国民懇話会御主催の、沖縄復帰を讃えることのような盛大な集いに出席して、皆様に一言お話し申し上げる機会をえましたことは、私の大きな喜びとするところであります。

昨十五日、沖縄は二十七年ぶりに本土に復帰しました。私は、昨日沖縄現地で開催されました復帰記念式典に出席し、復帰を迎えた現地の表情を、この目で具さにみてまいりました。

（ここで一言、政務次官御自身の御印象を、適宜お話ししていただければ結構と存じます。）

卒直に申しまして、長い間待ち望んだ復帰を迎えた沖縄県民の方々の心中は、「感激」と「複雑な気持」が交錯しているということではないかと思います。

あの悪夢のような太平洋戦争の悲劇的な結末と、その後二十七年の長きにわたる異民族統治に終止符を打つという事実の国民的、歴史的意義は、筆舌に尽し難いほど深いものがあると思います。それだけに、県民の方々の復帰を迎えた喜びは、いかばかりであろうかと推察する次第でございます。

一方、県民の方々が、復帰を迎えた今日、種々の不安を感じてお

られることも、私は十分承知しているつもりであります。戦後四半世紀以上にわたつて、本土と異なつた諸制度の下に置かれてきた県民各位にとつて、復帰が実生活上も大きな変革であることは事実であります。従つて、私は、本日ここで単に「沖縄の復帰お目出度う」というだけではなく、これまで県民の方々が経てこられた御労苦にも思いをいたしつつ、平和で豊かな沖縄県を発展させるため、復帰後の県民生活の確保と向上に極力まい進し、「矢張り復帰してよかつた」と心から喜んでいただけるよう、復帰後の沖縄施策に全力を尽す決意をここに新たにするものであります。

次に、私は現在外務政務次官という立場にあり、沖縄返還交渉にも政策的な面からお手伝いしてまいりましたので、今回の沖縄返還

実現といふ歴史的事実の背景、意義を、国際関係ないし日米関係の面から捉えてみたいと思います。

御承知のとおり、沖縄返還問題は、日米関係におけるいわば「戦後処理」上の、最大の政治案件でありました。

戦後四半世紀、世界の情勢も移り変り、わが国の外交は新たな時代を迎えておりますが、これを端的に象徴する一つが、第二次大戦における勝者たる米国と敗者たるわが国との間の平和的話し合いによる、今回の沖縄返還であります。

沖縄では、大戦中彼我數十万の犠牲が払われ、米国は戦後その極東戦略の要として沖縄を統治してきました。かくも重要な地域に対する施政権が友好裡に返還されたということは、世界史上にもきわ

めて稀な出来事であり、特に戦後の日米関係が相互信頼を基調として、敗者と勝者の関係から真に対等な協力者同志の関係へと発展してきたことを、具体的に示す点においてきわめて重要な意義を持つものと考える次第であります。国民年來の願望であつた沖縄返還が実現したことは、特に日米関係の上で、画期的なものがあることを端的に示しています。ることは、裏を返せば、沖縄返還を実現せしめたものは、実に戦後の日米関係を支えてきた友好信頼関係であると断言することができると思うのであります。

沖縄の返還は、戦後の「終点」であります。同時に新しい時代に向かつての「出発点」であります。これは単に沖縄県が本土の一県として発展してゆく出発点であるということだけでなく、戦後友

好信頼のきずなで結ばれてきた日米関係を、一層強固で安定した基礎の上におくものであり、さらにはわが国にとつて太平洋新時代ともいわれる新しい時代の幕開けを意味するものであると考へる次第であります。

以上、簡単でござりますが、沖縄復帰を迎へ、感想の一端を述べさせていただきました。

御静聴ありがとうございました。